

大塚敬節
矢数道明
責任編集

世漢方医学書集成

44
多紀元簡四

名著出版
刊



南京中医药大学图书馆版权所有

近世漢方医学書集成 44

多紀元簡(四)

第II期
全30巻

昭和五十五年八月二十五日 発行

編者

大塚敬節
矢数道明

発行者

中村安孝

発行所

株式会社
名著出版
東京都文京区小石川三ノ十ノ五
電話東京(八)一五二二七〇番代
振替口座 東京七一一三六四番

予約限定版



製版所

株式会社
日本写真製版社

印刷所

有限会社
伊藤印刷

製本所

辻本製本所

落丁本・乱丁本はお取替えします。

責任編集

大塚敬節

矢数道明

編集委員

山田光胤

寺師睦宗

大塚恭男

矢数圭堂

松田邦夫

凡 例

一、本書第四十四卷「多紀元簡(四)」には、『金匱要略輯義』卷四―卷六までを収録した。

一、本書は全て影印版によって収録したが、影印にあたっては次のようにした。

イ、新たに柱と頁数を付した。

ロ、底本を縮小し、一頁に半丁ずつ収めた。

ハ、裏表紙や記事のない白紙は省略した。

ニ、本文中の蔵書印及び所蔵者による書き込み等は、全て省略した。

ホ、印刷不明な箇所は、他の版本等により補正したところもある。

一、底本は次の通りである。

金匱要略輯義 版本(文化八年版) 六卷十冊(大塚敬節・矢数道明所蔵)

(題簽及び内題は『金匱玉函要略輯義』)

一、本書収録書目の解題については、第四十一卷「多紀元簡(一)」に記した。

多
紀
元
簡
四

目次

凡例	三
金匱要略輯義	三
卷四	三
黃疸病脈証并治第十五	五
驚悸吐衄下血胸滿瘀血病脈証治第十六	四
嘔吐噦下利病脈証治第十七	七〇
瘡癰腸癰浸淫病脈証并治第十八	一三
跌蹶手指臂腫轉筋陰狐疝蚘虫病脈証治第十九	一五〇
卷五	一六五
婦人妊娠病脈証并治第二十	一六七
婦人產後病脈証治第二十一	一六
婦人雜病脈証并治第二十二	一三三
卷六	一七二
雜療方第二十三	一七三

禽獸魚虫禁忌并治第二十四	三〇五
果實菜穀禁忌并治第二十五	三四八
跋	三九五

金匱要略輯義

卷四
卷六

金匱玉函要略輯義

七

修琴堂藏書

第金匱 9 號

金匱玉函要畧輯義卷四

東都 丹波元簡廉夫 著

○黃疸病脈證并治第十五

論二首

脈證十四條

方七首

寸口脈浮而緩。浮則爲風。緩則爲痺。痺非中風。四肢苦煩。脾
色必黃。瘀熱以行。苦徐本脈經作若

程脈得浮緩者。必發黃。故傷寒脈浮而緩者。繫在太陰。太
陰者。必發身黃。今浮爲風。緩爲痺。非外証之中風。乃風熱
蓄於脾土。脾主四肢。故四肢苦煩。瘀熱行於外。則發黃也。
沉風濕鬱結。邪正爲痺。痺者。閉也。因風拒閉。營衛爲痺。非

內經風寒濕三氣之痺。

案痺非中風。文義不屬。恐有脫誤。

跌陽脈緊而數。數則爲熱。熱則消穀。緊則爲寒。食卽爲滿。尺脈浮。爲傷腎。跌陽脈緊。爲傷脾。風寒相搏。食穀卽眩。穀氣不消。胃中苦濁。濁氣下流。小便不通。陰被其寒。熱流膀胱。身體盡黃。名曰穀疸。額上黑。微汗出。手足中熱。薄暮卽發。膀胱急。小便自利。名曰女勞疸。腹如水狀不治。心中懊懣而熱。不能食。時欲吐。名曰酒疸。脈經女勞疸酒疸各爲別條。徐沉魏尤並同疸沉尤作痺。

程跌陽胃脈也。數爲熱。緊爲寒。此胃中陰陽不分。清濁相干。寒熱混雜。雖消穀不能傳導。故食卽滿也。尺脈以候腎。

浮爲風。則傷腎。趺陽以候胃。緊則寒。不傷胃而傷於脾。風寒相搏。邪不消穀。得穀氣則熏蒸頭目。故作眩也。穀不消。則胃中之濁氣下流。而小便又不通利。正以腎爲胃關。脾寒被于少陰。則不能行宣泄之令。胃熱流於膀胱。則熱瘀蓄而不行。一身盡黃。因作穀疸也。尤腎勞而熱。黑色上出。猶脾病而黃外見也。額於部爲庭。靈樞云。庭者。顏也。又云。腎病者。顴與顏黑。微汗出者。腎熱上行。而氣通於心也。手足心熱。薄暮卽發者。病在裏在陰也。膀胱急者。腎熱所逼也。小便自利。病不在府也。此得之房勞過度。熱從腎出。故名曰女勞瘵。若腹如水狀。則不特陰傷。陽亦傷矣。故曰不

治懊懣鬱悶不寧之意。熱內蓄則不能食。熱上衝則時欲吐。酒氣熏心而味歸脾胃也。此得之飲酒過多所致。故名酒瘴。

巢源云。黃疸之病。此由酒食過度。府藏未和水穀相并。積於脾胃。復爲風濕所搏。痰結不散。熱氣鬱蒸。故食已如飢。令身體面目及爪甲小便盡黃。而欲安臥。黃疸也。穀疸之狀。食畢頭眩。心忪怫鬱不安。而發黃。由失飢大食。胃氣衝熏所致也。女勞疸之狀。身目皆黃。發熱惡寒。少腹滿急。小便難。由大勞大熱而交接。交接竟入水所致也。案本經云。小便自利可疑。

陽明病脈遲者。食難用飽。飽則發煩。頭眩。小便必難。此欲作穀疸。雖下之。腹滿如故。所以然者。脈遲故也。發陽明篇作微。

鑑穀疸屬胃熱。脈當數。今脈遲。脾藏寒也。寒不化穀。所以雖飢欲食。食難用飽。飽則煩悶。胃中填塞。健運失常也。清者阻於上升。故頭眩。濁者阻於下降。故小便難也。此皆欲作穀疸之徵。其證原從太陰寒濕鬱黷而生。若誤以為陽明熱濕發黃下之。雖腹滿暫減。頃復如故。所以然者。脈遲寒故也。此發明欲作穀疸屬脾陰寒化而不可下者也。

張氏傷寒心印云。按金匱穀疸有二證。此則虛寒而冷顯者也。傷寒續論云。脈遲胃虛下之無益。則發汗利小